



**高知の強みを活かす富裕層向け
サステナブル観光の提言
～世界のどんつき・高知～**

提 言

2023年9月

土佐経済同友会

高知の強みを活かす富裕層向け サステナブル観光の提言 ～世界のどんつき・高知～

代表幹事 佐竹 新市
代表幹事 横山 敬
観光振興委員会 委員長 森 恒一郎

《提言》

提言1 「高知のサステナブル観光」の定義と高知の文化の保全

1. 「高知のサステナブル観光」の定義

高知県特有の自然・文化を守り、観光資源として保全することで、中山間の人口減少に歯止めをかけ、自然環境を守り、循環型の社会を構築することと定義する。

2. 高知の文化の保全についての提言

- ・ 過疎の進行にあわせ、集落や保存会等の機能連携を行い、ネットワークの再編成を行う
- ・ 文化にまつわる記録や関連資料を集積・保管する
- ・ 文化の保全にまつわる活動も「見える化」し、観光資源とする

提言2 高知県特有の文化を活用した富裕層向け観光資源の開発

1. 高知の文化の再発見

高知城ステイを含む活用方法や、重要無形民俗文化財である土佐の舞神楽、祭り、風習等高知県特有の文化を通じた高知の再発見。

2. 高知県特有の文化に基づいた富裕層向け観光資源の開発

富裕層向け、質重視、独自性のあるカスタムメイド、かつ、サステナブルな観光資源の開発。

【はじめに】

世界的にみると、極東の日本列島は大陸や海から来た文化が流れ着く地であり、さまざまな時代に流入し創造された文化が堆積し、現代に受け継がれている。その日本の中でも辺境に位置する高知県は、それら多様な東西の文化の終着点であり、世界の文化が集積していく特異な地のひとつである。

その昔、今ほど交通の便が発達していなかったころ、高知は四国山地に遮られ、陸の孤島と言われるほどの陰しい地でもあった。そして、今でも豊かな自然が残っている。例えば、高知県長岡郡大豊町の日本一の大杉として名高い「杉の大スギ」は、「推定樹齢は二千年とも三千年ともいわれる。」^{※1}

そして、文化についても、弥生時代の銅矛が現代の秋祭りに用いられ、中世の神楽や御田祭などの芸能が演じられ、江戸時代に流行した踊りや祭りが今も続けられている。例えば重要無形民俗文化財の「土佐の神楽」は、「いざなぎ流」「岩原・永淵」「本川」「安居」「池川」「名野川磐戸」「梶原町津野山」「津野町津野山古式」「幡多」と県内9カ所ある。

このように、高知県では、新しい文化が届きづらい地において、たまさか流入した文化が、地域で大切に育まれ、時に全国で新たな流行が起きても影響を受けず、古い伝統を伝える多様な文化が息づいている。まさに、世界のどんつき（突き当たり）である。

そのどんつきである高知の古い伝統を伝える多様な文化を守り、継承するために、これらを魅力ある観光資源として捉え直し、特に、日本で誰もが見聞きしている観光地を回り尽くし、あまり知られていない日本の秘境や「コト」消費に関心のある富裕層をターゲットにすることで、消費額が増大することに加え、保存にむけた資金の獲得も狙うことができる。

こうした観点から、高知の自然、文化を守り、継承していくことを根底に置き、高知から発信するものすべてを高知ブランドと考え、育てていくことを目指すべく、ここに2つの提言を行う。

※1（大豊町史近現代編 P914 大豊町教育委員会発行、昭和 62 年）

提言1 「高知のサステナブル観光」の定義と高知の文化の保全

高知県の人口減少は、待ったなしの状態だ。なかでも、中山間の人口減少は著しく、山里を保全する人がいなくなり、山が荒れ、水が枯れ、自然災害が引き起こされるという悪循環をたどっている。それが更に人口減少を加速させる中で、地域文化の消滅が危惧されている。

高知の持つ地域文化の消滅を防ぐために、サステナブルな観光の取り組みを推進することが必要である。具体的には、無形文化財については、情報発信を進め、アクセスしやすい環境を整えることが望ましい。道の駅などに、地域文化のコーナーをつくったり、資料館に誘導したりするなどの仕掛けを設けることで、地域への関心が高まり、一過性の観光を超えることもできるだろう。

また、消滅しつつある文化の伝承という観点では、文化にまつわるモノ、資料等を残すことが重要だ。保管場所の確保など、迅速な対応が必要であると考えます。

あわせて、地元との交流を行い、「地元の人たちの保全に取り組む姿勢」を見せていくことも必要だ。

単に地域の人が地域の文化を守るだけでなく、DXの活用等により高知の取り組みを世界に発信することで、世界の人々と「地域とともに生きる体験」を共有し、ともに高知独自の文化や自然の魅力を活かし、守っていけるような面的な活動にしていくことも、サステナブル観光には必要である。

提言2 高知県特有の文化を活用した富裕層向け観光資源の開発

これまで、高知の観光は一般客向けの施策が中心だったこともあり、あえて、富裕層向けを提言する。

土佐の神楽や他の高知特有の文化を見える化し、人材を育て、そこで収入を得られる仕組みを構築することで、文化の継承を後押ししていく。そして、その活動を見せることも観光資源化していくことで、中山間の人口減少に歯止めをかけ、地域と観光資源の持続可能性を高めることができる。

“世界の富裕層、及び、日本を訪問した高付加価値旅行者の地域別の訪問率は、東京：76.7%、大阪：32.7%など3大都市圏において高い一方で、それ以外のほとんどの地域では訪問率が10%未満^{※2}なので、今後、富裕層獲得の余地がある。例えば、「インは大阪、アウトは高知」といった取り組みは、大いに期待できるところである。

そして、高知における富裕層向けのカスタムメイドの観光資源化候補の例としては、次のようなものを挙げるることができる。

(1) 高知城の更なる有効活用（歴史的建造物でのステイ等）

高知城は、“江戸時代に築かれた天守が残る現存天守十二城の一つであるほか、本丸御殿や追手門等が現存する。（中略）天守を含め、重要文化財として15棟が指定されている^{※3}こともあり、希少価値があるものである。この希少価値のある高知城について、更なる有効活用の余地がないか検討する。例えば、愛媛県大洲市の大洲城の様に、城泊も含めたステイというニーズを取り込むことも一案である。

(2) 「いざなぎ流」をはじめとする土佐の神楽の保全・活用（歴史・文化の体験）

高知には、稀少・独自の神楽があり、その価値を再定義し、観光資源として活用することが考えられる。その例として、当地の特異な民間信仰である「いざなぎ流」が挙げられる。

「いざなぎ流」とは“土佐国物部村（現高知県香美市）に伝承された独自の陰陽道・民間信仰である”。^{※4※5}他の地域に見られない特異な民間信仰として、研究者などの注目を集めてきた。その後、マンガや映画などの陰陽道ブームを経て、一般人へと認知が広がっており、一定のブランド化がなされている。古代の陰陽師、神々の物語である祭文、奥深く神秘的な山々の自然など、「世界のどんつき・高知」を代表し、世界に向けて発信するにはまたとない文化である。

こうした土佐の神楽は、今や継承がされておらず消滅の危機にあるが、本物志向の富裕層には、より心に響くコンテンツになり得ると考えられる。具体的には、これらを手軽に体験するための仕組み（常設のガイドセンター・展示スペース、ひいては宿泊兼体験スペース）を設けることが考えられる。

――土佐の神楽は、生活実態が変わった現代では、継承がうまく進まず消滅の危機にさらされている。例えば、「いざなぎ流」は定期開催ではなく、外部の人が祭りや神楽を見ることも困難で、展示スペースもほとんどない。そこで、常設のガイドセンターや展示スペースを設ければ、「いざなぎ流」と物部の文化を体験することが可能となる。

――また、「本物」を味わいたい富裕層等には、「いざなぎ流の舎（仮称）」のような宿泊兼体験スペースを設け、1泊2日から3泊4日のコースを設定し、講義、フィールドワーク、御幣切り体験、神楽舞体験などを組み合わせ、より深い学びを得られるようにしてはどうか。

さらに、いざなぎ流には、鍛冶屋の呪術（天神法）、大工法、杣法など職人の呪術も入り込んでおり、単に信仰や芸能だけでなく、「木の文化や木材利用の歴史」など、幅広い学びを行うことも可能である。

※2 地方における高付加価値な インバウンド観光地づくりに向けた アクションプラン 観光庁
<https://www.mlit.go.jp/kankocho/content/001483864.pdf>

※3 Wikipedia 高知城 <https://ja.wikipedia.org/wiki/%E9%AB%98%E7%9F%A5%E5%9F%8E>

※4 Wikipedia いざなぎ流

<https://ja.wikipedia.org/wiki/>

[%E3%81%84%E3%81%96%E3%81%AA%E3%81%8E%E6%B5%81#cite_note-NHK-2](https://ja.wikipedia.org/wiki/%E3%81%84%E3%81%96%E3%81%AA%E3%81%8E%E6%B5%81#cite_note-NHK-2)

※5 多くの神楽が最古のもので500～600年前ぐらいからとされている中、県東部の「いざなぎ流」は、800年続く（第10回FNSドキュメンタリー大賞ノミネート作品『辺境の神々～土佐・奥物部 いざなぎ流の宇宙～』 制作 高知さんさんテレビ

https://www.fujitv.co.jp/b_hp/fnsaward/backnumber/back/01-351.html

、他県にはない珍しい要素の多い高知県特有の神楽、民俗文化財である。また、県西部の神楽は、中四国の神楽の中では古い雰囲気をとどめている。

「いざなぎ流」の特徴は、数多くの御幣を用い、祭文を唱えた後、短い舞を行う点である。それに対し、他の8カ所では舞が主であり、他県の神楽と共通する部分がある。

委員会メンバー一覧（あいうえお順） 9月11日現在

秋澤 志名	奥村 興二	谷脇 匡晃	日浅 衛	山中 謙治
秋山 正之	川田 昌義	寺村 勉	藤田 智久	山元 文明
上田貢太郎	木村 祐二	寺本 武司	藤本 正孝	横山 公大
天野三恵子	久場 幸信	友田 由美	堀田 徹	吉澤文治郎
池田 実	久保雄一郎	中岡竜太郎	松岡 良展	吉田 尚人
和泉 潤	篠原 祐也	中澤 陽一	松崎 繁	吉田 佳史
伊丹 由美	十河 睦友	中西 克行	松村 豊	吉村 文次
市原芳一郎	田岡 弘久	永野 敬典	明神 基親	渡辺 陽
岩田 和久	竹内こうじ	永野 正将	村岡 望美	武藤 信義
上村 嘉郎	竹中 義博	西村 修一	森 恒一郎	
大原 栄和	竹村 克彦	西村 望	森田 啓介	
岡内 聡典	竜口 淳也	濱口 幸也	森田 陽介	
岡林 雅士	田中 拓生	濱田 幸広	森本 麻紀	

本件に関する問合せ先

土佐経済同友会 事務局

〒780-0823

高知市菜園場町 1-21 四国総合ビル 3F

(株)四銀地域経済研究所 内

TEL : 088-885-6707 FAX : 088-854-8650

メール・アドレス : tosadoyu@orange.ocn.ne.jp

インターネット・ホームページ :

<https://tosadoyukai.com/>